



WAVE 42号

ウェーブ

- 2010年4月
- 2 食ワーカーズへ
エール
- 3 福祉政策
- 4 INFORMATION



めざせ！足腰の強いワーカーズ



一步踏み出す勇気が未来を作る

お弁当屋「旬」の場合

ワンコイン弁当の台頭に打撃を受けたのがこの間の事のように思えるのですが、最近では近所のスーパーに三百円を切るものが並び始めました。「価格で勝負はしない！」と強がってはみるものの、このご時勢です、売り上げの減少に歯止めがかからない、というのが多くの食ワーカーズの現状ではないでしょうか。そんな中で「旬」が健闘しているわけとは。

県庁所在地というロケーションに恵まれたわが「旬」でさえ、弁当のみの売り上げは急降下。とりわけ利益率の大きい高い価格の注文が途絶え、大枚をはたいて揃えた豪華なお重には埃が積もっている有様です。そんな状況の中、わずかながら時給を上げ、新メンバーを積極的に受け入れてこれたのは、二つの新規事業の取り組みがあったからです。ひとつは幼稚園の給食弁当で、もうひとつは社会福祉法人施設でのランチを提供する委託事業です。

幼稚園のお弁当を最初に始めたのは八年前。ある会で「旬」のお弁当を食べた園長先生からの依頼でした。「多くの幼稚園は給



食センターからお弁当をとっているが、内容がひどくて先生方がこどもに食べさせるのに苦労している。おたくのお弁当を食べさせたい」と。有難い申し出だったのですが、メニューの事や衛生面など心配の種も多く、メンバーでかんかんがくがくの議論を重ねた末の出発でした。でもその不安が解消し、孫のお弁当を作るような



楽しみな仕事に変わるのに、そう時間はかかりませんでした。よそのお弁当

より百円高いのですが、昨春から一圓、この四月からもう一圓の受注をいただいています。

障がいをもつ人たちのデイセンターでのランチ作りは、幼稚園給食以上の大英断でした。メンバーの四分の一が専従となり、別事業部を立ち上げました。健康者以上に食べることを大きな楽しみとしている人たちに、安心して心のこもった食事を提供できるのは、ワーカーズである私たち以外はない、という自負の賜物です。来春で五年目に入りますが、年々事業規模が増え、今年度は旬の全事業高の3分の1をしめるまでになっています。



デイセンターも幼稚園も、経営方針をたてた上での営業努力によって獲得したのなら、ちょっと鼻を高くして自慢したいところですが、両方とも、先方からお話のあった事、単に「運」が良かったにすぎません。でも今、確信を持って言えるのは、固定収入源をもつ事のありがたさ。日によって注文数が何百個と変わる、その日暮らしの水商売の弁当屋を続けていたら「旬」も未来図を描けなかったでしょう。

根本敏子(旬)